

## 平成 30 年度 第 3 回野生鳥獣被害対策本部会議実施内容及び議事概要

1 日時 平成 31 年 2 月 7 日（木） 午後 1 時 30 分から午後 3 時まで

2 場所 県庁 3 階 特別会議室

### 3 会議

(1) 平成 30 年度野生鳥獣被害対策の主な取組の実施状況(上半期)について

ア 平成 30 年度実施状況及び平成 31 年度計画の概要について

資料 1
------

イ 平成 31 年度主要事業等について

資料 2
------

(2) 鳥獣被害対策等について

ア 平成 30 年度実施状況及び平成 31 年度計画の概要について

資料 3
------

(3) 長野県野生鳥獣被害対策本部設置要綱変更案について

資料 4
------

(4) 被害対策チームの取組について

資料 5
------

ア 平成 30 年度の代表的な取組

発表者： 諏訪地域野生鳥獣被害対策チーム

内 容： 諏訪湖等の鳥類対策におけるドローンの活用

(5) その他

### 4 議事

事務局から、それぞれの資料等に基づき説明を行い、意見・質問を問うたところ、次のとおり意見・質問とそれに対する説明があった。 研修の講演後も意見交換を行った

発言者	発言内容
事務局	<p>ただいまから、平成 30 年度第 3 回野生鳥獣被害対策本部会議を開催いたします。</p> <p>本日の全体の進行を務めさせていただきます対策本部事務局の鳥獣対策・ジビエ振興室の三枝哲一郎でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、副本部長の中島副知事からごあいさつをお願いします。</p>
中島副知事	<p>今年 3 回目の会議になります。野生鳥獣対策については、関係部局が連携し取り組んでいただいていることに感謝しております。</p> <p>今年度最後の会議として、平成 30 年度の事業実施状況と平成 31 年度の事業計画、予算等を情報共有するとともに、しっかり対応していくための議論をお願いします。</p> <p>個別の鳥獣被害対策では、被害が最も深刻なニホンジカの捕獲対策の状況を確認し、より効果的な対策の在り方について検討をお願いします。</p> <p>また本日は諏訪の被害対策チームの事例を発表してもらい、ICTを活用した新たな鳥害対策について、他の地域でも参考になる取組として共有したいと思っています。</p> <p>さらに被害対策チームがより関係部局の連携により充実するための方策についても検討したいと思います。</p>

	<p>最後に豚コレラの県内発生を受けて、野生いのししに対する取り組みについてもお話しさせていただきたいと思っています。</p> <p>限られた時間ではありますが、活発な意見交換をお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、会議は、林務部長の司会で進めさせていただきます。</p> <p>山崎部長よろしくをお願いします。</p>
山崎林務部長	<p>司会をつとめさせていただきます林務部長の山崎 明でございます。よろしくをお願いします。</p> <p>それでは、会議事項の「平成 30 年度事業の実施状況及び平成 31 年度事業計画の概要について」、「平成 31 年度主要事業等について」は関連がありますので、事務局から説明をお願いします。</p> <p>なお、質疑、意見交換は(2)まで説明の後、一括して行いたいと思います。</p>
山崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>事務局長の林務部鳥獣対策・ジビエ振興室長 山崎史生でございます。</p> <p>それでは、資料1、2をご覧ください。</p> <p>「野生鳥獣に負けない集落づくり」「自然や農林業をニホンジカから守るための捕獲の促進」に向け、平成 31 年度も引き続き、各部局の連携により「防除対策」「生息環境対策」「捕獲対策」を推進し「野生動物との緊張感あるすみ分けの実現と農林業・自然環境・人身への被害の軽減」を目指すとともに大量に捕獲せざるを得ないニホンジカを「地域資源として有効活用」するため、「ジビエ振興対策」を推進し「豊かな地域づくり」に還元してまいりたいと考えております。</p> <p>防除対策につきましては、農地への侵入防止柵の設置や造林木の樹皮剥ぎ防止のためのテープ巻きを促進します。</p> <p>生息環境対策につきましては、農地周辺の森林で緩衝帯の整備を促進します。</p> <p>捕獲対策につきましては、「ハンター養成学校」などの取組に加え、「1 捕獲者の確保・育成」で「高度捕獲技術者育成事業」として、捕獲の進行に伴い行動パターン等を変えて人を避けるようになった警戒心が高まったシカの捕獲に対応できる高度な捕獲技術者を育成するため、本年度検討した育成プログラムにより、来年度から捕獲者の養成講習に取り組んでいきます。</p> <p>ジビエ振興対策につきましては、既存 33 施設の外、現在、長野市中条地区に食肉処理施設が建設されておりますので、これら生産施設整備等の支援を行ってまいります。また、平成 31 年度からは流通から消費に係る取り組みは営業本部が、生産供給に係る取り組みは林務部で分野を分けて取り組んでまいります。</p> <p>「平成 31 年度事業の予算要求」につきましては、御覧のとおりですが、</p> <p>それぞれの部局において、捕獲対策として 2 億 6,300 万円、防除対策及び生息環境対策として 2 億 5,100 万円、ジビエ振興対策として 2,200 万円、保護管理体制整備として 700 万円、野生鳥獣の生息状況調査などとして 3,700 万円、合計 5 億 8,100 万円を要求しております。</p>

山崎林務部長	事務局から説明をいただきました。御意見ありますでしょうか。 来年度の特定鳥獣保護管理計画はニホンジカですか。
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	来年度はカモシカになります。
山崎林務部長	来年度のポイントは、営業本部を設置し、ジビエ振興では販路拡大を推進していくこと。その他に来年度の取組みについて御意見ありますでしょうか。
春日自然保護課長	自然公園内でのニホンジカ被害の防除対策の取組、外来種のアライグマ、アメリカミンクの調査等を、鳥獣対策・ジビエ振興室と連携して進めていきたいと思っております。
中島副知事	ジビエ振興と捕獲対策は、表裏一体であり、営業本部が関わることで、これまでと違う付加価値をつけていっていただきたい。産業労働部、観光部の立場からもそうしたことを考えていただければと思います。
中島課長補佐	ジビエの利活用については、観光の部分でも連携して、ジビエ料理という部分で、観光の重要なコンテンツとして考えています。
中島副知事	G20 の環境エネルギー会合も開催されるが、鳥獣の防除対策とジビエ振興は環境の適応策にもあたるので、G20 会合でもそうしたことを発信することや、ジビエだけでなく、ワインと組み合わせるとより魅力的なものにしていく発信していく必要があります。
山崎林務部長	都心のシェフの方とお話すると、ジビエだけでなくワインもというお話もあり、長野県の個性を農作物などと一緒にパッケージングできるように営業本部と一体となって取り組んでいければと思いますので、よろしく申し上げます。 では、(2)「平成 30 年度ニホンジカ捕獲対策の実施状況について」を事務局から説明をお願いします。
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	「平成 30 年度のニホンジカ捕獲の実施状況」について説明いたします。 平成 28 年、29 年、30 年の捕獲頭数の状況をグラフに示してあり、12 月末となっていますが、この段階で昨年度をやや上回っています。しかしこのままで推移した場合、昨年度を上回ると思われますが、目標の4万頭は下回ることが予想されます。 ニホンジカ被害の状況ですが、全般に農林業被害額は、防護柵等設置による被害対策で減少していますが、捕獲目標に達していない八ヶ岳管理ユニットは、捕獲目標に達している南アルプス管理ユニットに比べて前年度の被害額に対する被害額の減少率が小さく、被害は高止まり傾向であることから、捕獲の推進が必要です。 捕獲数減少の原因としては、シカの動きの変化があり、警戒心の高いシカの増加等が影響していると思われまます。 今年度実施しているセンサーカメラによる生息状況調査において、捕獲者への聞き取りではシカを多く見かけないという箇所でも、捕獲作業の人の移動を避けてシカが森林内で行動しているということが見えてきておりますので、この結果を市町村等と共有し捕獲に活用してまいります。 また、捕獲の約9割はわなによるものであり、冬期の積雪寒冷期には凍結の影響でわな捕獲が進まない所もあり、冬期でも捕獲ができるように凍結防止技術に

	<p>関する実証捕獲調査を実施していますので、その結果を市町村等に周知し、次年度以降の捕獲に活用したいと考えています。</p>
山崎林務部長	<p>ニホンジカについては、全体とすると、まだ捕獲は充分と進んでいるとはいえない。その原因については、スレジカの問題やワナの冬期設置の難しさの問題があり、それらの課題について取り組んでいくということですね。</p>
春日自然保護課長	<p>猟友会等もかなり頑張っているが、捕れづらい実態もあるとお聞きしている。新たな取組としてのシャープシューティングなどについては、どういう状況ですか。</p>
三枝企画幹	<p>高度捕獲技術者育成の中で、有識者等の御意見を聞きながらやっていきたい。夜間銃猟に関しては、これまでの実証から顕著な効果が得られなかったことも含めて、意見を聞きながら、こうした高度な捕獲技術の検討を進めている状況です。</p>
山崎林務部長	<p>高度な捕獲技術をできる担い手の育成が重要になってきますのでお願いします。</p>
中島副知事	<p>捕獲目標の達成状況をみると、達成している所、達成が難しい所があり、その現状を分析していただく中で、シカの動きの課題を示していただいた。その中で、今後免許所持者すべてが、実際の捕獲対策で活躍していただいている状況ではないので、それらも踏まえて捕獲に従事していただく方を養成していくことに焦点を当てて検討していただくようお願いします。</p>
山崎林務部長	<p>実際に捕獲に従事している方の数をふまえた上で、対応を考えていく必要がある。中部森林管理局と地域の猟友会の連携でわなの見回りの協力で国有林の捕獲が進んでいる事例もあるので、捕獲の成果が上がるように取り組んでください。</p>
中島副知事	<p>捕獲者だけでなく、中部森林管理局の例でもあるように捕獲に関われる人材という意味で考えて進めていただきたい。</p>
山崎林務部長	<p>(3)長野県野生鳥獣被害対策本部設置要綱変更案について事務局から説明をお願いします。</p>
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>野生鳥獣被害対策本部設置要綱の改正についてです。 本部設置から11年が経過し、各部局において連携をとりながら対策を講じて体制が構築されてきました。今後さらに機動的・実働的に活動を推進していくため、委員の見直しを行いたいと考えました。 本部長を副知事に、副本部長を林務部長に、本部委員を各部の主務課長にお願いします。</p>
山崎林務部長	<p>会議事項(3)について御意見、御質問がありましたらお願いします。</p>
中島副知事	<p>これでお願ひできればと思います。</p>
山崎林務部長	<p>では、本変更案について承認いただけますでしょうか。 それでは、承認いただきましたので、平成31年度から本野生鳥獣被害対策本部の体制を変更し、関係部局連携のもと、現地の被害対策チーム等の支援をより機動的に進めていただくようよろしくお願いします。</p>

山崎林務部長	<p>では、(4)の「被害対策チームの取組について」、平成 30 年度の取組事例として諏訪被害対策チームに発表していただきますが、事務局より説明をお願いします。</p>
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>今年度は、下側に記載のとおりツキノワグマの大量出没が懸念されていたため、初めての取組みとして各部局が連携して対策を講じてきました。</p> <p>人身被害防止、出没防止のため、河畔林の伐採、観光地での注意喚起、児童生徒への安全教育のための教職員研修等々、取り組んできました。</p> <p>結果、人身被害件数は5件と大量出没年に比較して少なく、森林内でのものもあり里地での人身被害はありませんでした。うち3件はニホンジカ用のわなに錯誤捕獲されたツキノワグマを放獣する際、わなが外れて被害にあったものです。</p> <p>平成 31 年度も各部局が連携しながら、被害対策の機能強化を進めてまいります。</p> <p>市町村が担う被害情報マップの作成にあたっては、対策チームや支援チームが協力し全獣種の被害を1枚のマップにまとめるなど、住民が見やすくわかりやすいものになるようにしたいと考えています。</p> <p>人と野生動物との緊張感ある関係を作るため、特にツキノワグマについては、大量出没が懸念された今年度同様、部局連携による対応に努めていきます。</p> <p>カラス等鳥類による市街地での環境被害対策も求められていることから、地域振興局の例えば環境課にも被害対策チームに参加を求めるなど、被害対策チームの地域の実情に合わせた連携を強化していきたいと考えています。</p>
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>1月 21 日に、各地域の鳥獣被害対策チームが、塩尻市にあります林業総合センターに集まり、各チームの今年度の取組状況の発表と意見交換を行いました。</p> <p>被害対策が日常化し、特に意識することなく継続されている地域もあれば、対策そのものが低調になり、対策チームが対策の継続に向けた地域人材の掘り起こしを行っています。</p> <p>内容は「今回取組みを始めた」というもの、「住民を巻き込んで対策をされているもの」「地道に継続して取り組んでいる」というものがありました。</p> <p>本日は、各地域の発表の中から、諏訪地域における取組みについて発表していただきます。対応が難しい鳥類にも着手し、他に先駆けてドローン等ICTを活用した新たな取組みを多くの機関と連携して行われたというものであり、他地域での対策のヒントになるものと思われましたので選ばせてもらいました。</p>
平澤鳥獣対策専門員	<p>諏訪地域振興局林務課林務係 鳥獣対策専門員の平澤直子です。</p> <p>諏訪湖地域では、ワカサギ漁及びワカサギの採卵等の漁業が盛んにおこなわれていますが、漁獲量の減少が大きな問題となっており、その要因の一つとして、魚食性鳥類であるカワアイサ・カワウによる食害もその一つとして考えられています。</p> <p>これまでの対策である船による追い払いは、人的、資金的負担が課題であるとともに、カワウについては、繁殖のコロニー形成が懸念される状況になってきています。</p>

	<p>そのため、被害を受けている漁協、鳥の保護を考える野鳥の会等の様々な立場の関係機関が連携し、ドローンを活用した対策について検討するため実証試験を行いました。</p> <p>ドローンによる追い払い試験では、嫌がらせによるドローンによる追い払いは可能という方向は得られましたが、ドローンの飛行時間など課題も確認できました。</p> <p>カワウのねぐら対策では、カワウがねぐらを移動する効果とともに、人が入りにくく作業しにくい箇所でも作業可能であることも確認できました。</p> <p>今回はドローンを活用した対策を試みましたが、ドローンは万能ということはなく、デメリットも試験結果の検討の中で指摘されています。</p> <p>ドローンの利点を生かしつつ、従来の方法とドローンを組合せながら効果的で省力的な防除方法を検討していきたいと思えます。</p>
山崎林務部長	<p>ありがとうございました。ただ今発表いただいた取組について、御意見、御質問がありましたらお願いします。</p>
高田環境部長	<p>こういったやり方が有効であれば、これからいろいろなところに広まっていけばよいと思えます。諏訪湖については、環境部としても生態系の関係を含めて一緒にやっていただければと思えます。</p>
平澤鳥獣対策専門員	<p>諏訪地域では、諏訪湖創生ビジョンを各関係機関と連携して進めていますので、その中でもご協力をお願いします。</p>
中島副知事	<p>先進的な取り組みであり、ぜひこういった取り組みを継続して行って、他所にも発信していただきたい。各地域の被害対策チームは被害対策だけでなく、生態系維持の観点、廃棄物に対する鳥獣対策等があり、各部局が連携し、地域振興局各課への連携した取り組みの強化について指導をお願いします。</p>
山崎林務部長	<p>今年は、クマの大量出没が予想される年でしたが、河畔林の整備、教育委員会等のクマ出没への注意喚起の徹底等の連携強化により、クマ対策については一定程度成果が得られたと思えます。気候変動が著しくなる中、これまでどおりの経験則で対応できない場合も想定されることから、来年度も各方面で連携し合って取り組むようお願いいたします</p> <p>それではその他について、事務局から何かありますでしょうか。</p>
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>農林水産省により、平成 30 年度鳥獣対策優良活動表彰において、上伊那郡辰野町の川島区有害鳥獣対策委員会が被害防止部門(団体)で農林水産大臣賞を受賞されることが発表されました。</p> <p>2月6日の豚コレラの発生を受け、死亡野生イノシシ個体の監視体制を強化します。</p> <p>既に昨年9月の岐阜県での発生後、本県においても死亡個体を発見した場合、最寄りの家畜保健衛生所へ通報していただくとともに、発見場所へ案内していただくよう、県猟友会に協力を要請してきたところですが、今度新たに、広域鳥獣保護管理員、鳥獣保護管理員に協力を要請するのに併せて、国有林を管理する中部森林管理局にも要請し、死亡イノシシの状況を把握するなど、監視を強化することで、豚コレラの拡散防止に努めます。</p>
山崎林務部長	<p>野生イノシシについては、発生箇所周辺からより安全を期して、異常なイノシシや、死亡イノシシがいらないかの監視をより強化するということです。</p>

中島副知事	9月から実施している死亡イノシシの検査の検査結果は、どうなっていますか。
山崎林務部長	県内ではこれまで8個体を検査し、すべて陰性となっています。
中島副知事	岐阜県で現在豚コレラが発生している箇所は、県境からは少し離れているので、長野県への影響はあまりないと考えてよいですか。
巾崎鳥獣対策・ジビエ振興室長	イノシシの行動範囲からすると、今の距離では長野県に影響してくることは正確に断定はできませんが野生イノシシからの影響は考えにくい状況です。
中島副知事	今回の監視体制の強化は、念のために何かあれば通報されるように、監視強化区域を設定するということですね。 しっかり監視体制を強化して念をいれてください。
三枝企画幹	岐阜県では、岐阜県内のイノシシの移動制限するために、今年度67kmの防護柵の設置や緩衝帯の整備を進められています。
山崎林務部長	岐阜県とは異なり、野生イノシシでの豚コレラの発生は確認されていないが、より安全側に立って対応を強化しています。
中島副知事	各部局の連携でシカ等の被害は減ってきているとともに、クマの出没対策も功を奏した形です。新しい体制においてもより機動力のある体制が組めるようにお願いします。 豚コレラ対策につきましては、今後防災会議等で検討されていきますが、野生イノシシ対策についてもこのような体制でお願いします。 本日はありがとうございました。
山崎林務部長	これで会議事項は以上となります。
事務局	どうもありがとうございました。 これで、第3回野生鳥獣被害対策本部会議を閉会いたします。